

完全オンデマンド型実施による情報基礎科目への参加度合いの把握

概要

(背景)

- PC必携
- 全学必修情報基礎科目の実施
- コロナ禍による授業の
オンデマンド対応
- LMS(Moodle)の活用

(方法)

オンデマンド授業に対応した
出席確認方法を構想、実施

- 欠席过多受講生へのアラート送付
- 修学支援センターとの連携
- 指導教員への情報共有

(結果)

- アラート受信済受講生のうち
45.6%が立て直して授業参
加したことを確認。
- 今後、より適切なアラート・
声掛けを検討。

大阪教育大学における 全学必修情報基礎科目の変遷

2017年度～

学部生PC必携実施
全学必修・情報基礎科目（ICT基礎a）の実施
(教職科目「情報機器の操作」の位置付け)

2020年度～

コロナ禍による「インターネットを活用した授業」の
実施
ICT基礎a：完全オンデマンド授業を実施

2022年度～

ICT基礎a：欠席过多の情報を修学支援センターに
共有開始

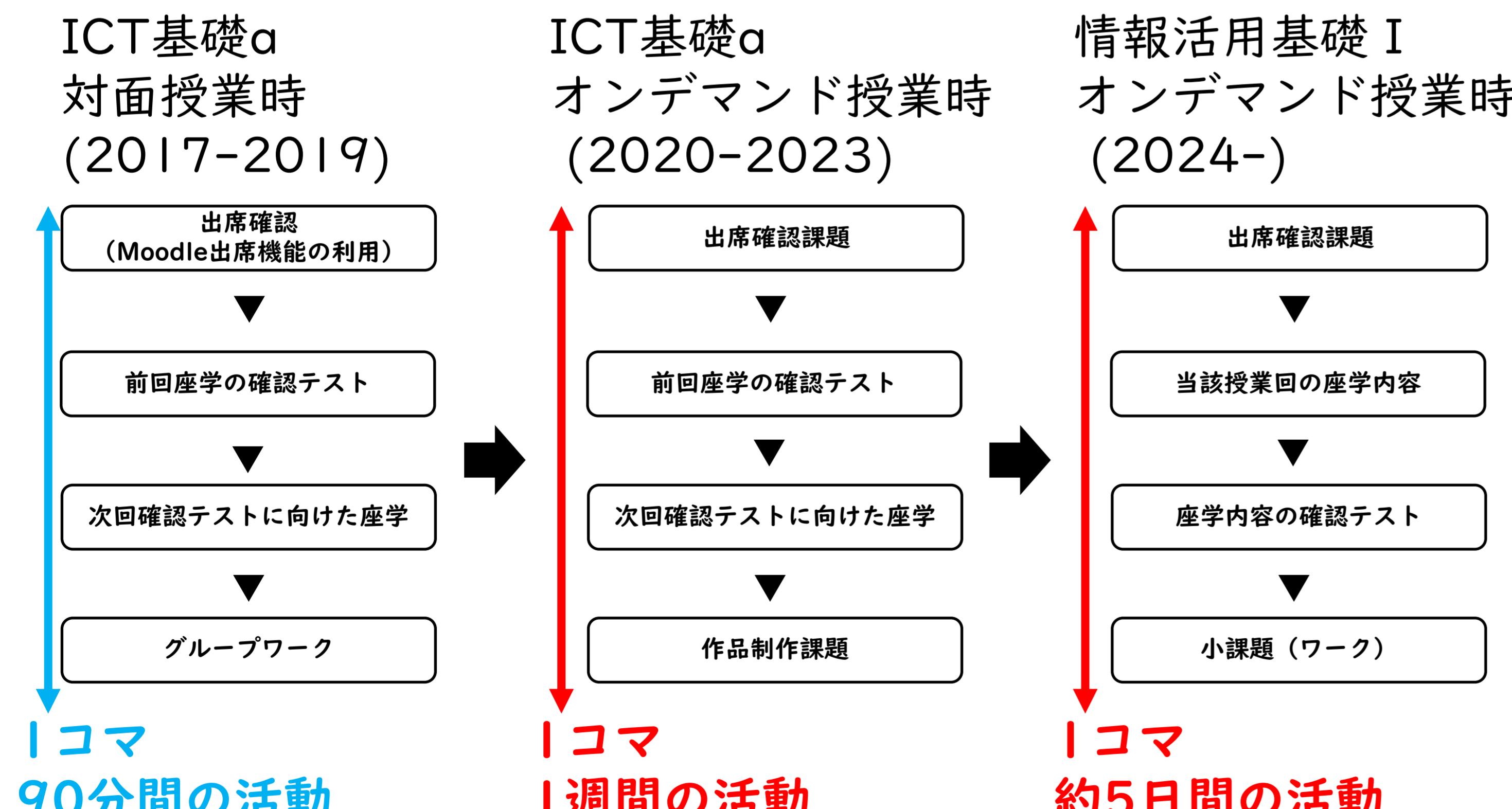
2023年度～

全学的に原則対面授業実施
ICT基礎aにおいては「完全オンデマンド授業」を継続

2024年度～

学部改組、カリキュラム改変に伴い
「情報活用基礎I」として開講。

授業内活動期間の変更



対面授業時の「90分間」授業 + 授業時間外活動
↓
オンデマンド授業時、「所定の活動期間中に何かしらの活
動が認められれば出席とみなす」ように変更。

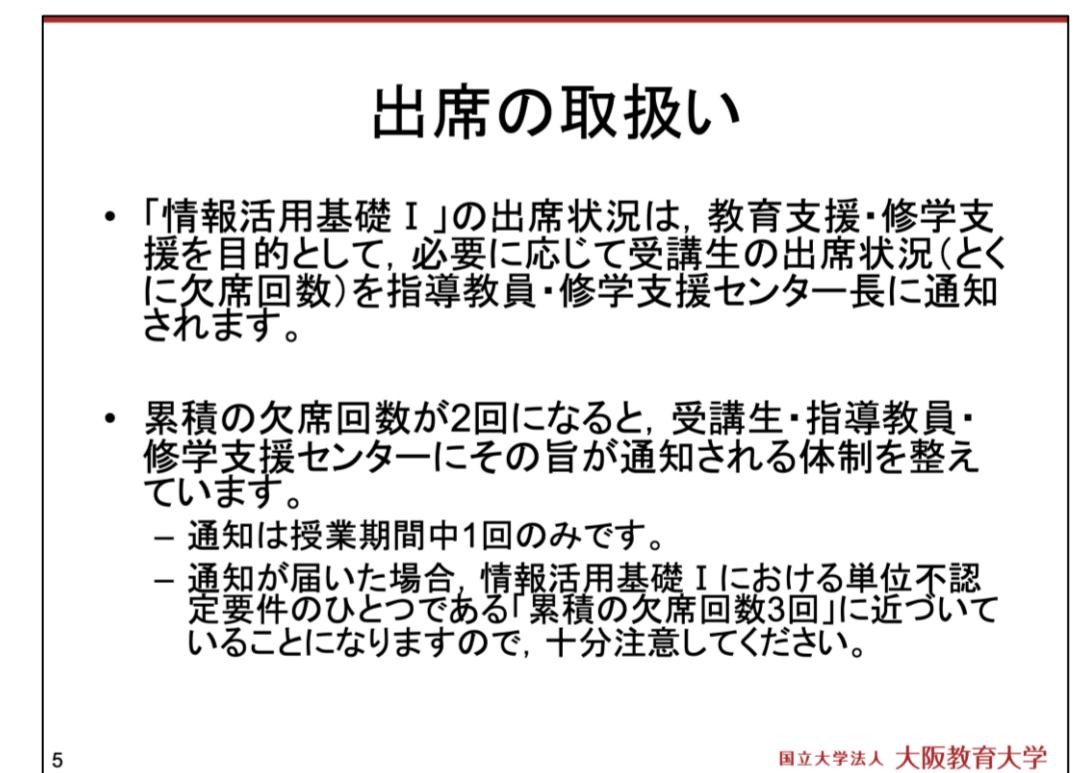
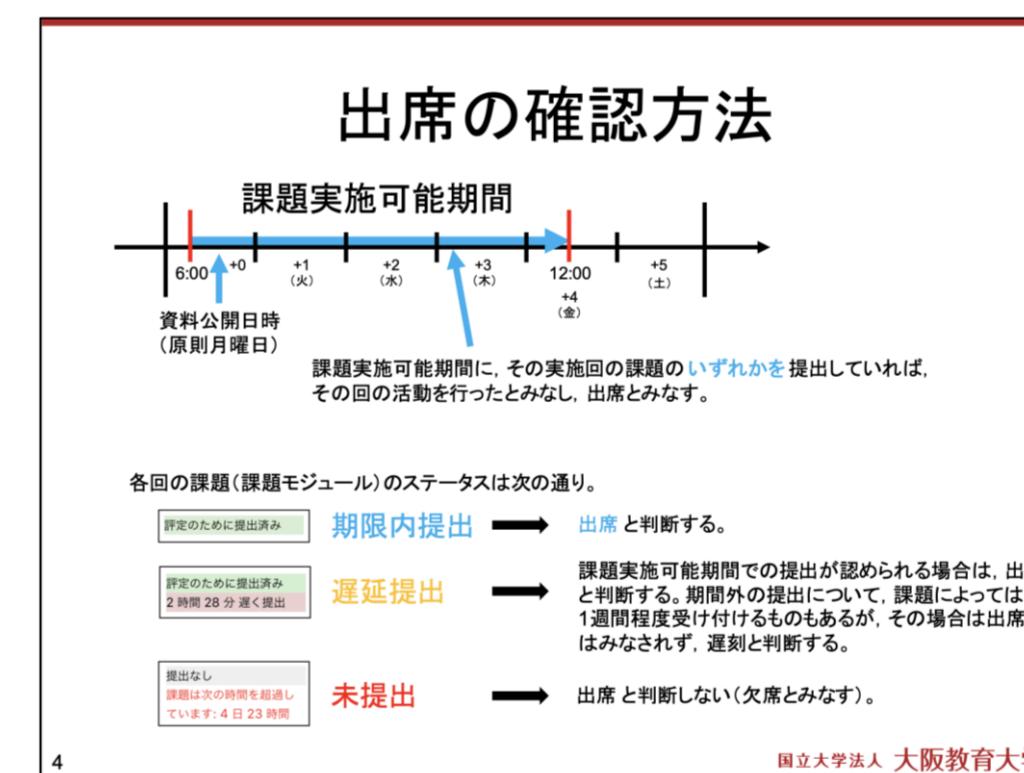
オンデマンド授業実施時の工夫

【完全オンデマンド授業実施の懸念点】

- 受講生自らがLMSにアクセスする必要性
(プッシュで情報はやってこない)
→ 資料掲載時に「資料掲出」のアナウンスを実施
- 課題掲出されているかどうかの認識
(授業そのものの存在に気が付かない場合も)
→ 欠席アラートの仕組みを授業担当として実施
→ 後に修学支援センターと連携

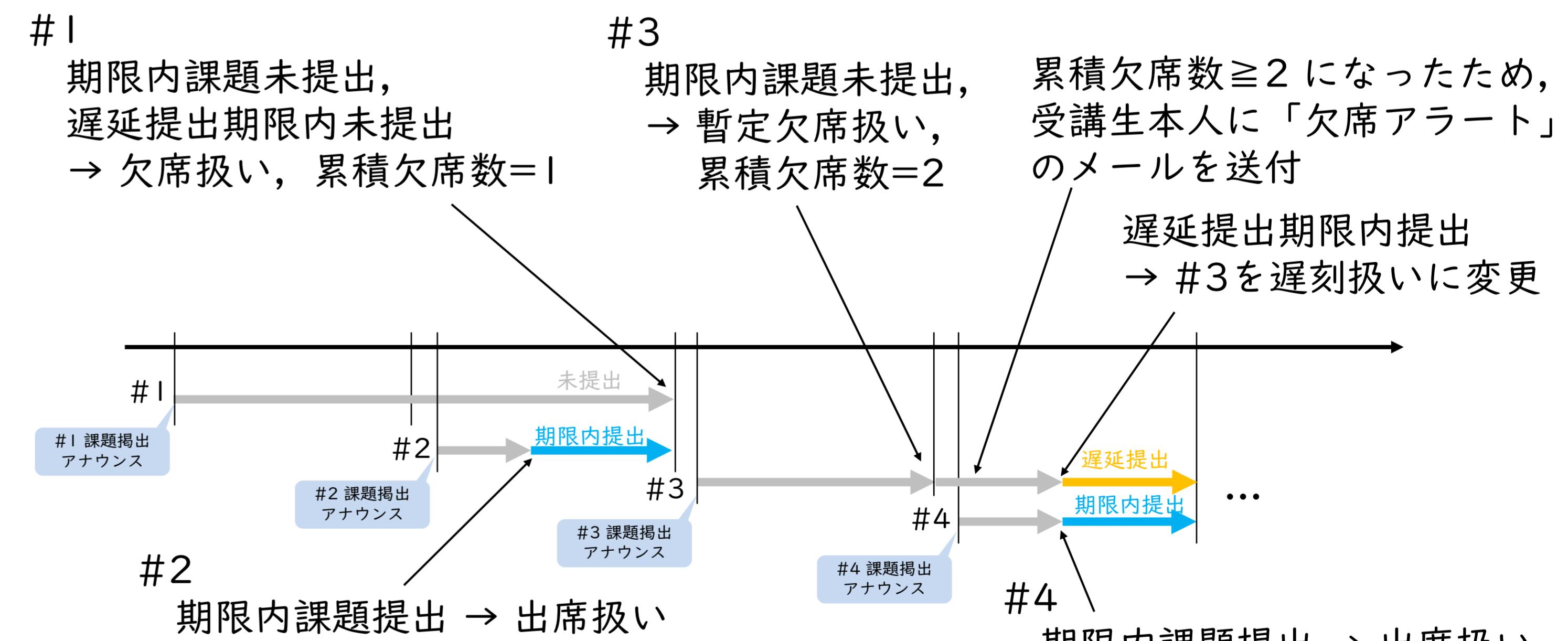
欠席过多学生へのアラート

- 「1年次前期必修授業」「学年統一カリキュラム」であることを活用
→ 出席状況の部分的な提供・協力へ
→ その後「授業出席状況の活用に関する要項」制定 (2023.2.10施行)
- 受講生の「累積欠席回数」が2回以上になったとき、
・当該受講生に対して「欠席アラート」連絡を送付
・当該受講生の担任にその旨を連絡 (情報提供)
・毎回の俯瞰状況を修学支援センターに共有



受講生への案内資料（出席方法・取扱い）

【欠席アラートによる累積欠席回数立て直しの具体例】



2024年度の取組み結果

- 2024年度「情報活用基礎I」実施の全受講生（1回生、918名）のうち一度でも「累積欠席回数」2以上に到達した受講生 = 68名に対してアラートを送付。指導教員に情報共有。うち「累積欠席回数」< 2 に立て直しできた受講生=31名。欠席过多で単位不認定の受講生=14名。
- 今後、作業を半自動化し、柔軟に対応可能な体制の構築を目指す。